

◎SLOT劇場版魔法少女まどか☆マギカ[新編]叛逆の物語

人気シリーズの4作目が6号機として登場します。
通常時の流れや「穢れシステム」など、初代を意識したつくりの本機。
AT中は差枚数管理となり、初期枚数決定の特化ゾーンからスタート。
また、ベルの規定回数到達で特化ゾーンを抽選するといった、
新たな要素も追加しており、ファンの期待が高まります。

純増約3枚/GのAT機。AT中の擬似ボーナスは、レア役で差枚数の上乗せを抽選。
強レア役で、特化ゾーンの抽選も行っており、当選時は擬似ボーナス終了後、1Gで放出する。



©Magica Quartet / Aniplex · Madoka Movie Project Rebellion [Music]
Licensed by Aniplex Inc. Licensed by SACRA MUSIC
©UNIVERSAL ENTERTAINMENT

“穢れ”は本作でも健在！

本機は、AT（純増約3枚/G）機で、ベース、コイン単価、AT初当たり確率、出玉率、天井については、メーカー未発表です。

■通常時

通常時は、規定ゲーム数消化とレア役解除で、擬似ボーナス「マギカボーナス」「エピソードボーナス」を、スイカ成立でチャンスゾーン（CZ）をそれぞれ目指す、初代の「SLOT魔法少女まどか☆マギカ」に近いゲーム性となります。

おなじみの「穢れシステム」は、今作も健在。規定ゲーム数の消化やCZ失敗などから、“穢れ”が蓄積し、AT非突入の擬似ボーナスやAT終了時に、蓄積量に応じて発動を抽選。発動すれば、継続率管理の枚数上乗せ特化ゾーン「くるみ割りの魔女」へと移行します。

■CZ

CZは、「干渉遮断フィールド」と上位の「キュウベえチャレンジ」の2種類（両者とも10G）。

前者は、成立役に応じて毎ゲーム、擬似ボーナスを抽選。レア役成立で、チャンスとなります。ボーナス期待度は約30%です。

後者は、突入時点で「マギカボーナス」が確定。カットイン発生時に「ほ

むら図柄」がそろえば、「エピソードボーナス」に昇格します。

■擬似ボーナス+AT

「マギカボーナス」は20G。消化中は、液晶上部に表示される「ソウルジェム」の色で、AT突入期待度を示唆。色は各キャラクターに対応しており、終了後の「マギカチャレンジ」で、AT当選をジャッジします。主人公の「まどか」までランクアップすれば、AT確定です。

「エピソードボーナス」は40G。突入でATが確定し、消化中に差枚数の上乗せ抽選を行います。

AT「マギカラッシュ」は、差枚数管理型。突入時は、初期枚数を決定する特化ゾーンからスタート。初期枚数の最低保証は、100枚。AT中は、レア役による差枚数上乗せや特化ゾーンなどの抽選のほか、ベルの規定回数到達で、擬似ボーナスや特化ゾーンを抽選しています。

特化ゾーンも多数用意。前述の「くるみ割りの魔女」はバトルタイプで、追撃上乗せや楽曲の変化など、おなじみの「ワルプルギスの夜」を継承。「ほむらVSまみ」は20G+αで、ベルやレア役、「ほむら図柄」ぞろいで、差枚数の上乗せを抽選。「悪魔ほむらゾーン」は20Gで、毎ゲーム上乗せの

チャンス。1回の上乗せは、10~500枚です。

シリーズ最新作で、6号機となる本機。規定ベル回数による抽選が加わったことにより、レア役を引かずとも、チャンスとなる点は注目。

運用面では、メーン機種として育てていくホールが多いと思いますので、撤去期限まで、シリーズ機と併用しながらコーナー化した方がいいでしょう。

設定の偶奇での挙動や高設定の動きを早い段階で把握すべき台なので、初動から、積極的に各設定を試すことをおすすめします。さらに、高設定を使うことで、SNSに拡散される期待度も大。ホールのやる気を知ってもらうチャンスとなるでしょう。

PROFILE

ハヤタ君

アテイン所属で、本名は加納謙太郎。SE業界からパチンコ・パチスロ業界へ転職し、8年。ブログ「ハヤログ」、およびTwitter（slomani_hayata参照）を使い、実践情報や店舗情報などを発信している。同時にパチスロコンサルタントとして、中小ホールを中心に、設定調整、機種選定、島レイアウトといった、営業の提案を行う。